

## 2. 2 研究論文・小論文の書き方（国語分野）

### (1) 研究開発の課題（研究概要）

獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析し、その成果を文章化して他者に示すための、論文の構成のあり方、叙述方法を学ぶ。そしてその学習を踏まえ、課題研究として研究した内容を論文にまとめる。

### (2) 研究開発の経緯

入学当初から評論文の要約に取り組み、得られた情報を論理的に表現する方法を学んだ。2学期末には、パラグラフィティングについて理解し、課題研究のレポートを論文の形式にまとめた。

### (3) 研究開発の内容

#### ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は、獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析を進める創造力・理解構成力などの「真理探究力」を促すことができると考えられる。

#### イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH国語総合

対象生徒 普通科1年生徒 8学級

実施場所 本校 各教室

#### 実施内容

##### 要約

『長文記述問題集読解力習得編』（いいずな書店）記載の評論文・小説の要約論文

- ・論文構成の書き方について学ぶ。
- ・パラグラフィティングを用いた段落構成の在り方について理解する。
- ・パラグラフィティングによって文章を構成する。

#### ウ 検証（成果と反省）

長文を要約することで、与えられた情報をいかに取捨選択し、論理に一貫性のある文章にするかというトレーニングができた。理解した内容をまとめて言語で表現するというのは難しい作業であるが、継続して行うことで理解構成力を養う一助となった。

パラグラフィティングについての理解は容易なことであり、このような文章構成がグローバルスタンダードだという認識も持つことができた。しかし、自分が持つ情報をパラグラフィティングで構成して表現するには訓練が必要であり、時間がかかるものである。今回はパラグラフィティングへつなげるための第一段階として、教科書掲載の評論文をパラグラフィティングし、その構成などを参考にしながら、「人口減少社会」をテーマにパラグラフィティングに取り組んだ。日本の出生率・死亡率などを示したグラフから客観的な事実を読み取り、状況の推測をしたのちに、どのような対策をするかをパラグラフィティングで書いた。生徒の感想では、活動を通して「文章が以前より読めるようになった」「文章構成力が身についた」などの肯定的意見が多く見られた。一方で作文のためのメモを作る段階までは順調に進んだが、そこからうまく説明できなかつたり、具体的な対策を書けなかつたりする生徒もおり、さらなる表現力・構成力の育成が求められる。

指導する教員側の反省点としては、次の2点があげられる。まず一つ目は評価についてである。教員が評価をする前に生徒間での相互評価と自身による自己評価をさせているが、これらの評価間に差が生じており、その多くに自己評価の低さが見られる。このような生徒には教員が適切な評価をし、それを生徒にフィードバックしなければならない。また、差が生じた原因の一つにルーブリックの基準が明確になっていなかったという点があげられる。評価基準をより精査していきたい。

二つ目は教科間の連携についてである。今回は「現代社会」や「家庭基礎」などの科目でも扱うテーマであったが、その科目で得た知識を関連させることができなかつたり、現実的な対策をイメージできなかつたりする生徒が見られた。広い視野に立って課題に取り組めるようにワークシートなどを工夫し、多角的に物事をとらえるように声掛けをしていく必要性を感じた。

これらの反省点について次年度には積極的に意見交換をし、より良い指導の方法を模索することが必要である。